

## 幼児教育におけるデジタル紙芝居を用いた金融教育の実践

小山内幸治\*<sup>1)</sup>, 北野友士<sup>2)</sup>, 西尾圭一郎<sup>3)</sup>, 氏兼惟和<sup>4)</sup>

1) 滋賀短期大学, 2) 大阪市立大学大学院, 3) 愛知教育大学, 4) 愛媛県金融広報委員会

### Practice of Financial Education using Digital Picture-Story Shows in Early Childhood Education

Koji OSANAI<sup>1)</sup>, Yuji KITANO<sup>2)</sup>, Keiichiro NISHIO<sup>3)</sup>, Yoshikazu UJIKANE<sup>4)</sup>

1) Shiga Junior College, 2) Osaka City University Graduate school

3) Aichi University of Education,

4) The Council for Financial Services Information of Ehime Prefecture

抄録：本稿は、金融経済教育推進会議が作成した「金融リテラシー・マップ」の小学校低学年対象の「習得すべきスタンダード」を参考に、幼児教育用として作成したデジタル紙芝居「みんなのカレーライス」および「おかねはたいせつに」を用いて、幼稚園の年長組（5歳児）を対象に金融教育の取り組みを実践し、それに対する児童の反応を観察するとともに、視聴後の家庭における行動や態度および発言の変容を調査し考察したものである。

園児は、このデジタル紙芝居を、興味をもって視聴し、教員の問いかけにも積極的に反応していることが観察された。また、保護者対象のアンケート結果を見ると、これらのデジタル紙芝居を見ることにより、お金に対する行動や態度および発言の望ましい変容がみられたことがわかる。以上のことから、本デジタル紙芝居は、幼児教育における金融教育の教材として効果的であると結論付けることができた。

キーワード：幼児教育、金融教育、金融リテラシー、金融リテラシー・マップ、デジタル紙芝居

### 1. はじめに

近年、世界的に経済の不確実性が高まる中で、早くから個人のライフデザインを描き、マネープランを考えておくことの必要性が増している。個人にとって金融リテラシーに関する知識やスキルは必須のものであり、それらを身につけることの重要性が叫ばれている。金融リテラシーの向上を目指して、幼児教育段階から国家が基準を示して、金融教育を行っている国もある。

---

\* E-mail: osanai@sumire.ac.jp

アメリカの例をみると、ほぼ9割にあたる45州でK-12（幼稚園児から高等学校最終学年までの13年間の教育期間）の教育スタンダードにパーソナルファイナンスの内容を含んでおり、2015年に改訂されたNational Standardsの第4版では幼稚園（kindergarten, preschool）段階でのベンチマーク（基準）が設定された。<sup>(1)</sup>

イギリスにおいても、2014年9月に、英国のセカンダリースクールにおける国家カリキュラムに金融教育を導入する決定が行われ、幼児教育・初等中等教育の金融教育を担っているPersonal Finance Education Group (Pfeg)が金融教育のフレームワークを策定した。このなかには、3歳から5歳児まで(Early Years Foundation Stage)、および6歳から7歳児(key stage 1)のフレームワークが含まれており、これに基づいて幼児教育段階の金融教育が行なわれている。<sup>(2)</sup>

こうした状況の下で、わが国においても2014年6月には金融経済教育推進会議から小学生から高齢者までのライフステージごとに身につけるべき金融リテラシーを設定した「金融リテラシー・マップ」が公表された。さらに、2015年にはその改訂版が発表されたが、これらには、幼児教育段階の金融リテラシーの具体的記述は含まれていない。また、幼稚園教育要領にも、金融教育の具体的な内容はふれられていない。

本稿は、幼児教育段階に最も近い、小学校低学年における「金融リテラシー・マップ」の「習得すべきスタンダード」を参考として作成した幼児教育用のデジタル紙芝居を用いて、幼稚園の年長組（5歳児）を対象に金融教育を実施し、その際の児童の行動を観察した結果と、視聴後の家庭におけるお金に対する態度の変容を考察することにより、幼児教育段階での金融教育の有効性を検討したものである。

## 2. 日本の幼児教育段階における金融教育

### 2.1 幼稚園教育要領と小学校学習指導要領における金融教育

上述のように非常に具体的な枠組みを提示しているアメリカやイギリスとは異なり、日本の幼稚園教育要領では、幼児教育段階での金融教育に対する具体的な枠組みは述べられておらず、「幼稚園教育要領」解説の中に遊びの中の一部としてお金やお店の記述がみられるだけである。

ここでは、小学校の学習指導要領、および金融広報中央委員会が作成した「金融リテラシー・マップ」をもとに、小学校低学年で必要とされている金融リテラシーを確認する。

2016年12月21日の中央教育審議会答申を踏まえ、2017年3月31日に学習指導要領が改訂された。この中で、消費者教育と関連する各教科等（社会科、公民科、家庭科、技術・家庭科等）において、引き続き消費者教育に関する内容を規定するとともに、現行の規定に加え、社会科において「販売の仕事が消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていること」、家庭科では「買い物の仕組み、売買契約の基礎」・「物や金銭の使い方と買い物について、消費者の役割が分かること」について内容を更に充実させることが謳われた。

また、金融庁、消費者庁、文部科学省、有識者、金融関係団体、金融広報中央委員会をメンバーとして2013年に設置された金融経済教育推進会議は、2015年6月に、小学生から、高齢者までの「最低限身に付けるべき金融リテラシー」を年齢層別、体系的かつ具体的に記した「金融リテラシー・マップ」を発表した。この中にも、幼児期の金融リテラシーは含まれていない。そこで、幼児教育段階にもっとも近い、小学校低学年における金融リテラシーの内容を表1に掲げてある。

## 2.2 日本の幼児教育段階における金融教育

日本においては、幼児教育段階における金融教育のベンチマークやフレームワークは示されていない。この原因は、日本の幼児教育では、「遊びからまなぶ」「体験を通してまなぶ」ことが重要視されており、幼稚園教育要領に金融教育の学習すべき内容を明記することは、幼児教育段階の教育になじまないと考えられているためと思われる。<sup>(3)</sup>

しかし、日本においても、幼児教育段階における金融教育は、活発に行われている。例えば、「お屋さんごっこ」や「買い物体験」は、ほとんどの幼稚園で行われているし、各園が、それぞれ工夫した独自の取り組みも行っている。

表1 小学生（低学年）で習得すべきスタンダード

分類	小学生（低学年）で習得すべきスタンダード
家計管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ものには価値があることを知り、ものを大切に使う習慣を身に付ける</li> <li>○お金の価値を知り、お金を大切にする</li> <li>○欲しいものをすべて手に入れることはできないことを知る</li> <li>○ものやサービスを購入するとき、お金を払う必要があることを理解し、実際にものやサービスを購入する</li> <li>○欲しいものが手に入らない場合にがまんできるようになり、予算の範囲内でものを買うことができる</li> </ul>
生活設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家の手伝いをすることで役立つ喜びを知る</li> <li>○家の手伝いや係活動を通じて自分の役割を考える</li> <li>○働く人々の素晴らしさに気付く</li> <li>○お店の人の工夫や努力に気付く</li> <li>○友だちと協力して活動しようとする</li> <li>○こづかいやお年玉を貯めてみる</li> <li>○こづかいの使い方を通して計画的に買い物をすることの大切さに気付く</li> </ul>
金融取引の基本としての素養	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的を考えてものを選んで買うことができる</li> <li>○約束を守ることの大切さに気付く</li> </ul>
金融分野共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ものやサービスを購入するとき、お金を払う必要があることを理解し、実際にものやサービスを購入する</li> <li>○硬貨と紙幣の違いに気付く</li> <li>○こづかいやお年玉を貯めてみる</li> <li>○ものとお金は交換されることを知る</li> <li>○お店の人の工夫や努力に気付く</li> <li>○公共施設などの利用にはお金が必要となることがあることに気付く</li> </ul>

出典：金融経済教育推進会議「金融リテラシー・マップ」2016年1月より抜粋

表2 沼津市の保育所・幼稚園における各項目の取り組み状況 (%) ※

項目	保育所	幼稚園
おつかいや買い物に関心を持とう	80.0%	70.6%
身の回りのものを大切にしよう	100.0%	58.8%
協力することの大切さを知ろう	80.0%	76.5%
ものを丁寧に扱おう	90.0%	58.8%
くらしの中の危険や、ものの安全な使い方に気づこう	85.0%	58.8%
困ったことがあったら身近な人に伝えよう	90.0%	64.7%
約束や決まりを守ろう	100.0%	76.5%
欲しいものがあつたときは、よく考え、時には我慢することをおぼえよう	60.0%	41.2%
あわてないで行動しよう	75.0%	88.2%
身の回りのさまざまな情報に気付こう	40.0%	35.3%
自分や家族を大切にしよう	80.0%	64.7%
身の回りの情報から「なぜ」「どうして」を考えよう	50.0%	35.3%

※保育所は対象 31 か所、回収数 20、回収率 64.5%、幼稚園は対象 25 か所、回収数 17、回収率 68%

出典：沼津市（2014）「消費者教育に関する取り組み状況等の学校等への調査」報告書

静岡県沼津市では、2014年に市内の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校を対象に「消費者教育に関する取り組み状況等の学校等への調査」（表2）を行った。<sup>(4)</sup>

この結果をみると、「おつかいや買い物に関心を持とう」（保育所 80.0%、幼稚園 70.6%）、「約束や決まりを守ろう」（保育所 100.0%、幼稚園 76.5%）などの内容を含む取り組みは、多くの保育所、幼稚園で行われている。しかし、金融リテラシーとしては重要と思われる「欲しいものがあつたときは、よく考え、ときには我慢することをおぼえよう」（保育所 60.0%、幼稚園 41.2%）という項目の取組を行っているところは比較的少ないことがわかる。また、このような取り組みにおける「消費者教育推進上の課題」としてどのようなものがあるかを聞いたところ、「対象となる子供の年齢が低く、生活上の経験が少ないため、伝え方が難しい」（保育所 45%、幼稚園 52.9%）、「対象年齢にあつた教材の情報不足している」（保育所 40.0%、幼稚園 41.2%）、「家庭における教育との関連を図るうえで、保護者との連携が難しい」（保育所 30.0%、幼稚園 35.3%）などの課題があげられた。

幼児教育段階の現場がこのような課題を抱える中で、金融広報中央委員会が開設しているウェブサイト「知るぼると」をはじめとして、さまざまな団体が、幼児教育段階での金融教育関連のものを含む情報提供や教材配布、講師派遣、イベント開催に取り組んでいる。また、県や市町村の消費者教育担当部署が、幼児教育向けの消費者教育向け教材を作成し、配布している例も多くみられる。このように、幼児教育段階での金融教育を支援する環境は、整いつつある。

### 3. 幼児教育段階における金融教育用教材デジタル紙芝居の開発と実践

#### 3.1 金融教育用デジタル紙芝居「みんなのカレーライス」「おかねはたいせつに」の開発

滋賀短期大学ビジネスコミュニケーション学科の特別演習Ⅰ・Ⅱ（小山内担当）では、2018年度から、履修している学生が、幼児教育向けの金融教育用の教材作成に取り組んでいる。2019年度は、デ



みんなのカレーライス	お金は大切に
	
<p>5. 子ども「あっ！お肉のコーナーだ！おいしそうなお肉がいっぱいあるぞ。ぼくお肉いっぱい食べたいから、お肉 800 円分買おう！」  <b>問いかけ「あれ、あれ、お肉 800 円分買うって言うてるよ、みんなはどう思うかな？」</b></p>	<p>11. 子ども「あれ？ATM を見つけたぞ。あれはたしかいくらでもお金を出せる機械だ！お母さん！ATM からお金を出しておもちゃを買ってよ！」  <b>問いかけ「あれあれ？みんなはどう思うかな？」</b></p>

図1 デジタル紙芝居の一部 (下線は問いかけ)

デジタル紙芝居「みんなのカレーライス」と「おかねはたいせつに」の二つの教材を作成した。

コンピュータを用いて視聴するデジタル紙芝居という形式にしたのは、幼稚園教員との打ち合わせの中で、ビデオなどの映像に関する教材は園児も興味を示すことが多いという情報があったこと、教育現場に配布する際にダウンロードするだけで済むこと、印刷することによって通常の紙芝居としても上演できることなどからである。<sup>(5)</sup>

教材の開発は以下のような手順で進められた。

- ①学生に金融リテラシー・マップを配布し、小学校低学年の習得すべきスタンダードを確認させ、幼稚園児にも理解できる内容のストーリーをグループで考察してもらった。一つは、幼稚園で予定されている「カレーライスをつくろう」と関連するものにするように依頼した。
- ②完成したストーリーをもとに、コンピュータ上で作画を行い、音声も録音したうえで、コンピュータで再生できるようにパワーポイントでデジタル紙芝居を作成した。
- ③プロトタイプ版作成の段階で、本学の附属幼稚園長、年長組の担当教員に視聴してもらい、改善点を指摘していただいて、数回の改訂を経て最終版を完成させた。

これらの教材を用いて附属幼稚園においてデジタル紙芝居による金融教育の実践に取り組んだ。これらのデジタル紙芝居は、パワーポイントで再生可能で、音声も再生できるが、A3用紙に印刷すれば、通常の紙芝居のように利用することも可能である。それぞれのデジタル紙芝居の概要は以下の通りである。

(1) 「みんなのカレーライス」の概要

カレーライスを作るために、兄弟3人で買い物に行き、予算や、安く買える方法などを考えながら買い物を終え、みんなで協力しながらカレーライスをつくり、おいしくいただくという内容である。

(2) 「おかねはたいせつに」の概要

クレジットカードとATMを題材に、ニーズとウォンツを考え、お金を大切につかう必要があることを学んでもらう内容である。

デジタル紙芝居の一部を図1に掲げてある。また、2つの教材のねらいと「金融リテラシー・マップ」の小学生（低学年）で「習得すべきスタンダード」との対応については、表3にまとめてある。

表3 デジタル紙芝居のねらいと金融リテラシー・マップとの対応

「みんなのカレーライス」		
No.	ねらい	金融リテラシー・マップとの対応
1	予算以内の金額で買い物をすることを理解する	<b>家計管理:</b> 欲しいものが手に入らない場合にがまんできるようになり、予算の範囲内でものを買うことができる。 <b>金融分野共通:</b> ものとお金は交換されることを知る
2	何を買うかという計画をきちんと立ててから買い物をすることを理解する	<b>金融取引の基本としての素養:</b> 目的を考えてものを選んで買うことができる
3	まとめて買うと安く買えるものがあることを知る	<b>家計管理:</b> お金の価値を知り、お金を大切にすること <b>金融分野共通:</b> お店の人の工夫や努力に気付く
4	まとめ買いで1個あたりは安く買っても、大量すぎて消費しきれない場合があることを理解する	<b>家計管理:</b> ものには価値があることを知り、ものを大切に使う習慣を身に付ける
5	一桁の金額の計算に挑戦してみる	—
6	買い物をしたときは、消費税を支払わなくてはいけないことを知る	—
7	消費税は、みんなで助け合って、豊かな生活をおくるために国に払っているお金であることを理解する	<b>金融分野共通:</b> 公共施設などの利用にはお金が必要となることがあることに気付く
「おかねはたいせつに」		
No.	ねらい	金融リテラシー・マップとの対応
1	クレジットカードはお金を払わなくても品物を買えるカードではない。あとで支払う必要があることを知る	<b>金融分野共通:</b> ものやサービスを購入するとき、お金を払う必要があることを理解し、実際にものやサービスを購入する
2	ATMはいくらでもお金の出てくる機械ではなく、預け入れているお金を引き出す機械であることを知る	<b>家計管理:</b> お金の価値を知り、お金を大切にすること
3	お金は働いて得るものであること、そしてそれには限度があることを知る	<b>生活設計:</b> 働く人々の素晴らしさに気付く
4	家族が働いて得たお金で、生活をしていかななくてはならないことを知る	<b>生活設計:</b> 働く人々の素晴らしさに気付く 欲しいものをすべて手に入れることはできないことを知る
5	働く家族のためにお手伝いをすると感謝されることを知る	<b>生活設計:</b> 家の手伝いをすることで役立つ喜びを知る 家の手伝いや係活動を通じて自分の役割を考える
6	お金は大切なものであることを知る	<b>家計管理:</b> お金の価値を知り、お金を大切にすること
7	物を買うときは本当に必要か、本当に欲しいものかをよく考えて買い物をすべきであることを理解する	<b>家計管理:</b> 欲しいものをすべて手に入れることはできないことを知る 欲しいものが手に入らない場合にがまんできるようになり、予算の範囲内でものを買うことができる

### 3.2 幼児教育段階のデジタル紙芝居を用いた金融教育の実践

附属幼稚園において、前述の二つの金融教育用デジタル紙芝居を実践した。実践の概要は、それぞれ以下の通りである。

#### (1) 「みんなのカレーライス」

2019年6月10日(月)に、年長組(5歳児)40名を対象に、デジタル紙芝居「みんなのカレーライス」を上演した。上演方法は、大型テレビ(55型)とコンピュータを接続し、画像と音声をテレビから流して行った。場面の転換は、教材の中に教員が園児に問いかける内容もあるため、園児の様子を確認しながら、学生がタイミングをみてクリックすることで、次の場面に移動する方式で行った。

##### 1) 園児の反応

上演を始める前にあらかじめテレビの画面に、表題「みんなのカレーライス」のページを表示させていたが、読める子は「みんなのカレーライス」と口々に話していた。何がはじまるのだろうという期待感をもっていることが感じられた。上演が始まると熱心に視聴していた。園児の反応を見て、作成に参加した学生は、満足感と充実感を示していた。

このデジタル紙芝居は、重要だと思われる場面で上演を止めて、園児に対して、教員が問いかけを行う構成になっている。それに対する反応を以下にまとめる。

①予算が千円であるが、「お肉八百円分買おう！」という発言に対して、教員が、「さあ、みんなどう思うかな？」と園児に問いかけると、園児は一斉に「ダメー」と発言した。「どうしてダメなのかな」という問いかけには「カレーたべられないから」「カレー入ってへん」「他のものが買えない」などの発言がみられた。

②「みんなの食べたいものをたくさん買うことができるかな？」という問いかけでは、一斉に「できない！」という発言があり、「(お金が)無くなっちゃうから」「足りなくなるから」などの発言が続いた。

③「じゃがいもは1個50円。3個の袋入りは100円。10個の袋入りだと300円」と説明があった後、「みんなはどれを買えばいいと思う？」という問いかけには、口々に自分の考えた答えを発言していたが、挙手をもとめたところ、ほとんどの子どもが3個に挙手した。その理由は「100円だから」と答えていた。10個と答えた子が1人いたが、1個当たりの値段が一番低いことに気付いているかどうかは確認できなかった。

④弟「10個が安いよ。10個買おう。」 姉「そうだね。でもカレーにつかうのはみつただよ。10個買ったなら食べきれなくて、あまっちゃう。」 妹「食べきれないのはもったいないね。」 弟「一つ売りを3個買おう。」という場面での「みんなはどれを買うかな？」という問いかけには、「3個」と口々に発言していた。

⑤買った材料の値段の計算をしてみる場面では、それぞれに、指を折りながらかぞえたり、暗算をしたり、口に出しながら計算するなど、自分なりに計算に挑戦している様子が観察された。ここでは、

園児に答えは聞かず、紙芝居に正解を表示するにとどめた。

⑥消費税の説明のところでは、「消費税知ってた」という子どもが何人かいた。

## 2) 材料の買い出しにおける園児の様子

このデジタル紙芝居を見たあとで2019年6月14日(金)に、園児は実際にカレーライスづくりをするための材料としてカレールー、玉ねぎ、缶コーン、ニンジンの買い出しに近くのスーパーに行った。このときの行動を観察したところ次のような傾向がみられた。

①現金を手にして買い物をする経験が少ないようで、お金を渡すと嬉しそうにしていた。

②お金は大切なものであると伝えたため、なくさないようしっかりと握りしめていた。

③手持ちのお金で買おうとしている品物が買えるかどうか気にしていた。

④手持ちのお金で足りるが、値札の値段よりレジで金額が高くなること(消費税)を知ったので少し不安そうにしていた。

⑤玉ねぎ、ニンジンの購入時には必要な個数の袋がこれでいいのか何度も確認していた。(1個売り、3個売り、〇〇産など数種類の販売形態があった。)

⑥この量で足りるかな?と購入後も心配そうにしていた。

⑦「早くカレーが作りたい」と心待ちにしていた。

お金は大切であること、消費税がかかること、購入したものが量、価格が適切であるかを意識した行動がみられたことがわかる。実際のカレーライスづくりは、2019年6月18日(火)に行われた。

## 3) 家庭における園児の変容

このデジタル紙芝居を見た後の、園児の家庭での行動・態度や発言の変容を知るために保護者を対象にアンケート調査を行った。結果は表4にまとめてある。「足し算に挑戦するようになった」、「値段を比べるようになった」、「安いほうを買うようになった」、「お金がないと買い物できないことを理解した」、「お金に興味をもった」、「お金がだいじだと理解した」、「消費税に言及した」など、我々の予想以上に家庭での行動や態度および発言に影響をおよぼしていることが分かった。

この取り組みは、金融紙芝居「みんなのカレーライス」の視聴、実際の買い物、カレーライスの調理実習と一連の流れの中で行われることで単なる知識の習得だけではなく、実際の実習との関連づけを意識した内容となっている。

### (2) 「おかねはたいせつに」

2019年9月20日(金)に年長組(5歳児)40名を対象に、デジタル紙芝居「おかねはたいせつに」を上演した。デジタル紙芝居の上演の仕方は、上記の「みんなのカレーライス」と同様である。

#### 1) 園児の反応

この紙芝居も、園児に対して、いくつかの問いかけの場面がある。それに対する反応を以下にまとめる。

①「カードならお金がなくても買えるでしょ?」という場面での問いかけには、「カードはお金」



「カードの中にお金があるから」「そんなにつかつたらなくなる。」「カードがお金になる」などの発言があった。

クレジットカードの存在は知っているようである。また、クレジットカードがお金と関連していることは理解しているようであった。しかし、ポイントカードと区別がつかない園児もいたようである。

表4 保護者に対する園児の変容に関するアンケート調査結果(一部)「みんなのカレーライス」

「みんなのカレーライス」	
1	● 買い物の劇の内容について聞いたら、こんな内容のお話だったよ、と教えてくれました。いっぱい買うとお金もたくさんかかるよ 等。
2	● 1桁の足し算をするようになりました。
3	● 「〇〇と△△どっちが値段が高い？」と聞いてきました。
4	● いままで欲しいお菓子を見つけるとすぐに欲しがっていましたが、「〇〇と△△が欲しいけどこちらのほうが安いし△△にするわ」と選んで買う様になりました。 ● お肉などグラムによって値段がちがうことが不思議だったようで‘量によっても値段がちがう’ということを知ってから、「何グラムちがうの？」と言いながらその量に近いものを探してくれるようになりました。 ● 沢山カゴに入れておくと「ママ、買いすぎたらお金減るからやめとき!!」と買いすぎをセーブしてくれるようになりました。
5	● お買い物が出来たいと言ってきました。 ● たくさん買ったら、沢山お金もいと話してくれました。 ● たくさん買いすぎるとお金が足りなくなるので、たくさん買いすぎるのは良くないとお買い物中に教えてくれました。
6	● 娘は、「買い物は楽しそうだったけど、お母さんは買い物するときにこんなことを考えてるんだなー。と思ったよ。」と言っていました。
7	● 沢山食べ物を買って食べきれないのは、ダメな事だと話をしてくれました。
8	● 正直、まだ買い物やお金の事にピンときていない様子でしたが、「お金がないとお買い物ができない」、「買うものをおかなくて何を買いなにかわからなくなる」等の発言はありました。「値段より高くなるのは消費税があるから」とも発言しており、本人なりに、教えていただいた事を学んでいる様でした。
9	● お買い物する時のお金は大事、ちゃんと使えてよかったと話していました。
10	● 消費税の存在を初めて知って話題にだしてきました。(100 円のものは、108 円払わないといけないうことを教えてくれました。)
11	● お金はどのようにできているのかを質問してきた。 ● おこづかいが欲しいと言うようになった。 ● お金についての関心はその時は感じられました。
12	● お勉強させて頂いたのがとても楽しかったのか自分で選んで、自分のサイフの中のお金から支払いたいと言うようになりました。また、以前は、すぐコンビニでお菓子買ってーと言っておりましたが、スーパーで買ったほうが安いからお金が多く残るよ、と伝えるとすんわり分かってくれるようになりました。 ● たいへん為になりました。本当にありがとうございました。
13	● お金はあるだけ使えろと考えなくなりました。500 円と 200 円どちらが多いか、大切に理解したみたいです。ありがとうございました。
14	● 消費税があることに気付き、税抜きの金額から「お金を払うときには少し高くなるんだよ」って教えてくれました。一緒に買い物に行くと金額を見るようになり、「これ高いね」と言うようになりました。
15	● 「もったいない」とよくいうようになりました。

実践日 6月10日 アンケート回収日 6月19日 回収数 17

②「あれ？ATMを見つけたぞ。あれはたしかいくらでもお金を出せる機械だ！お母さん！ATMからお金を出しておもちゃを買ってよ！」という場面での、「あれあれ、みんなはどう思うかな？」という問いかけには、「お金が出てくる」「銀行にある」「お母さんがお金を出していた」「ここにお金をいれたら、自分のお金がかえってこない」などの発言がみられた。ATMについても、多くの園児が見た事があると答えていた。

表5 保護者に対する園児の変容に関するアンケート調査結果「おかねはたいせつに」

「おかねはたいせつに」	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 買い物に行くとおつりの小銭を気にするようになった。</li> <li>● 「何円」と値段を聞いてくるようになった。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● こちらから質問するとATMやクレジットカードは見た事があるが、それが勉強してきた物とつながっていなかったようで、あらためて認識した様です。お金の大切さと、父が働いて得たお金で生活することができていると少しは考えてくれた様です。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今日のお話どうだったと聞いたら、お金は大事なもので、家に同じものがあったら、考えて買う。おもちゃはがまんすると話していました。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お父さんはどんな仕事をしているの？</li> <li>● 給料について聞いてきた。</li> <li>● ご飯を作る、お風呂掃除を進んでしてくれるようになりました。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既にもっているおもちゃを大切に、本当にそれが欲しいものかをよく考えてお買い物をしなきゃいけない、それは大事なことだと思いと話し、自分の誕生日に欲しいといっているおもちゃが本当に欲しいものかを改めて考え直していました。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>● クレジットカードとはなに？と聞かれた。</li> <li>● クレジットカードを使うときもお金を払うことと変わらないと話してくれた。</li> <li>● お金をいくら残っているか考えて使うことの大切さを話してくれた。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 紙芝居について、子どもからの自発的な行動はありませんでしたが、「カードよりもお金が大事だ」と感じたようです。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お買い物時に、お菓子売り場で、いつもおねだりをされるのですが、黙って思い悩む様子だったので、聞いてみました。すると、買う前に考えないといけないと話してくれました。物事をする前に、何事も考えることは大切だと思いますし、良い経験を先らせて頂きありがとうございました。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガソリンスタンドでクレジットカード払いをした際にあとからちゃんと支払えるのか何度も確認された。</li> <li>● 今まで買い物のたびに、おもちゃ付きのお菓子を欲しがっていましたが、これからは特別などきのごほうびに買ってくれたらいい！と言っていました。そのかわりに小さなおかしを買う約束をしました。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本人から特に話してくることはなかったです。どう思った？と聞いたらお金が大事な事、無駄なものは買わないと言っていました。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>● いままでATMに行くと、「お金が増えているんだね。」と言っていました。先日は「お金が減っているんだよね。」というようになり、少し理解できているのかな。と思いました。</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 姉が誕生日に買ってもらいたいものの候補をアレコレ複数挙げていると、「そんなに買ったらお金なくなるからあかんで。」と言っていました。お金は使うとなくなり、なくなると困るということは何んとなく理解できたようです。</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常生活で特に変化は感じられませんでした。こちらから紙芝居の感想を聞いてみると、「ちゃんと考えておもちゃをかわないといけない。」「箱の機械(ATM)からお金を出していると、いつかお金がなくなってしまう」とお金の勉強になったようです。</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 最近、クレジットカードをもっているか聞かれた。</li> <li>● お菓子を買う時に、このお菓子は高いからこっちの安いお菓子にするって言うようになりました。</li> </ul>

実践日 9月20日 アンケート回収日 9月25日 回収数 14

③「みんなは欲しいものがあるとき、それが本当に必要かどうか、考えているかな？前に似たものを買わなかった？遊んで、すぐ飽きることはないかな？」という問いかけには、「うん、考えてる」「学校にあって、あとでいなくなるかもしれないから、あのことかんがえなあかん」「（ひつようじゃないものを買ったら）お金がなくなっていくやん」などの発言があった。「あきちゃったことはないかな？」との問いかけに「ある」「ない」という反応が半々であった。「（買ったものを）宝物のように大事につかったら何個もかわなくてもいい」という発言があった。

## 2) 家庭における園児の変容

このデジタル紙芝居の視聴後も、前回同様園児の家庭での行動や態度および発言の変容を知るために保護者を対象にアンケート調査を行った。表5にまとめてあるように、「クレジットカードでの支払いの際に、後で支払えるか確認された」、「本当にそれが欲しいものかをよく考えてお買い物をしなきゃいけないと発言した」、「父が働いて得たお金で生活していることを理解した」、「ATMからお金を出すとお金がなくなると発言した」、など「みんなのカレーライス」同様、我々が予想した以上に影響を及ぼしていることがわかる結果となっている。

## 4. まとめと今後の課題

これらのデジタル紙芝居は、「小学生（低学年）で習得すべきスタンダード」を参考にして作成されたが、園児は興味をもって視聴しており、また、園児の変容からは、各デジタル紙芝居の「ねらい」も、園児によっては達成されていることがわかる。このような点から、本デジタル紙芝居は、幼児教育における金融教育の教材としてある程度の教育効果は発揮できたと結論付けることができる。

しかし、幼児教育段階では「遊び」から「体験」し「学ぶ」ことが重要である。このような面からいえば、「みんなのカレーライス」の上演と、「カレーライスをつくろう」との一連の連携した取り組みは幼稚園教育において効果的なものとなると思われる。今後もこのような実体験と連携した取り組みを行っていきたい。

さらに、各回のデジタル紙芝居上演のあと、保護者に、紙芝居の金融教育の内容やねらいを周知し、園児の変容のアンケート調査への協力をお願いしたことで、家庭で金融教育を意識した保護者と園児との会話が行われるきっかけになっている例もみられた。沼津市のアンケートで、保護者との連携についての課題があげられていたが、金融教育では家庭教育が重要な役割を果たしていると思われるので、保護者との連携を意識した金融教育の試みを今後も行っていきたいと考える。

## 謝辞

本研究を進めていくにあたり、滋賀短期大学付属幼稚園の小野清司園長、近藤鉄矢教諭、小川真耶子教諭に、教材作成と実践にあたり多くのご協力、ご意見をいただいた。心から感謝申し上げます。

本研究は、JSPS 科学研究費補助金（科研費）18K02690 の助成を受けたものの一部である。

本研究で扱っている実践の実践報告「幼児教育における電子紙芝居を用いた金融教育の試み」（小山内幸治，小野清司，近藤鉄也，小川真耶子著）は，金融広報中央委員会主催，金融庁，文部科学省，日本銀行後援「第16回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール（2019年）」において実践報告部門の奨励賞を受賞した。本論文は、当該コンクールの受賞作品に分析と考察を加え加筆したものである。

## 注

(1) 1)JumpStart および 5)北野他を参照

(2) 2)Young Money および 3)鎌田を参照

(3) 文部科学省が作成した資料「新幼稚園教育要領のポイント」のなかに、「幼児期に育みたい資質・能力は，小学校以降のないいわゆる教科指導で育むのではなく，幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で，感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり，不思議さに気付いたり，できるようになったことなどを使いながら，試したり，いろいろな方法を工夫したりすることなどを通じて育むことが重要」という記述があるように，幼稚園教育では遊びや体験をととした学びを重要視している。

(4) 金融教育，金融経済教育，消費者教育は，それぞれ定義があるが，実際には明確に区別することは難しい。ここでは，金融に関する知識やスキル・態度を育成する教育全般を金融教育として記述した。

(5) 新幼稚園教育要領には，指導上の留意事項として「幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ，視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には，幼稚園生活では得難い体験を補完するなど，幼児の体験との関連を考慮すること」との記述がある。今回の実践では，単なる情報提示だけではなく，教員からの問いかけを含む相互のやりとりや，実際の買い物体験，カレーライスづくりと関連付けていること，家族との買い物の際の追体験などとの関係から，実体験からの学びに寄与したと考える。

## 主な参考文献

- 1) JumpStart (2017) National Standards in K-12 Personal Finance Education 4th Edition (2nd printing) pp.1-46
- 2) Young Money (2014) Financial Education Planning Framework 3-11 years <https://www.young-enterprise.org.uk/> (2021/01/15)
- 3) 鎌田浩子 (2015) 「イギリスにおける金融教育」 『釧路論集』 北海道教育大学釧路校研究紀要 47 pp.41-46
- 4) 金融経済教育推進会議 (2015) 「金融リテラシー・マップ『最低限身に付けるべき金融リテラシー（お金の知識・判断力）』の項目別・年齢層別スタンダード」 pp.1-38
- 5) 北野友士・小山内幸治・西尾圭一郎 (2016) 「米国金融教育における JumpStart の役割」 『金沢星稜大学論集』 50 (1) pp.91-98.
- 6) 沼津市 (2014) 「消費者教育に関する取組状況等の学校等への調査」 報告書 pp.11-22
- 7) 文部科学省 (2017) 「幼稚園教育要領」 pp.1-202